

## 平成30年度第2回幕別町総合教育会議議事録

1 開催日時 平成30年12月19日（水）午後4時25分～午後5時25分

2 開催場所 幕別町役場3階会議室AB

3 出席委員（6名）※欠席者なし

幕別町長	飯田 晴義
幕別町教育委員会教育長	菅野 勇次
教育委員	小尾 一彦
教育委員	瀧本 洋次
教育委員	國安 環
教育委員	東 みどり

4 日程

(1) 開会挨拶

(2) 意見交換

① 第6次幕別町生涯学習中期計画（素案）について

② 幕別町教育大綱（素案）について

5 事務局出席者

幕別町企画総務部長	山岸 伸雄
“ 政策推進課長	谷口 英将
“ 政策推進課副主幹	中田 周呼
幕別町教育委員会教育部長	岡田 直之
“ 学校教育課長	山端 広和
“ 生涯学習課長	石野 郁也
“ 学校給食センター所長	宮田 哲
“ 図書館館長	武田 健吾
“ 学校教育課総務係長	中山 仁
“ 学校教育課学校教育係長	塚本 真敏
“ 生涯学習課社会体育係長	甲谷 英司

6 傍聴者

2名

## 7 議事録

(政策推進課長) ただ今から平成30年度第2回幕別町総合教育会議を開催いたします。開催に当たりまして、飯田町長よりご挨拶いたします。

(町長) 皆さんお疲れ様でございます。

今年を振り返ってみますと、町にとっては非常に良い年だったなと思っております。何と言いましても、年明け早々の平昌オリンピックで高木姉妹が大活躍をしてくれたということです。また、基幹産業であります農業につきましても、春先は良かったのですが6月5日以降非常に曇天雨天が続いて、生育が心配されたところでありましたが、生育そのものは平年並みまで至らずという状況になりましたが、値段が付いたということで生産額は恐らく史上第3位の3千億円台を記録する見込みでありますので、本当に安心しているところでありまして、町税の方もそんなに落ち込まずに納めていただけるかなと、そんな気持ちでいるところでもあります。

教育委員会におかれましては、平昌オリンピックのパブリックビューイングあるいは高木姉妹の凱旋パレード、報告会と本当にご苦労をされたと思えますし、また、スポーツの面では、東京の次のパリオリンピック大会の特別指定強化選手であります赤石泰雅君が世界年齢別トランポリン競技大会の男子シンクロナイズド競技で金メダルを取ったということで、個人種目では惜しくも決勝に行けなかったですけども、今後も本当に期待が持てるということでもあります。

さらに、学校教育の方では課題でありました小中一貫の取組が非常に進んだと思えますし、来年4月の開校予定であります幕別清陵高校についても、ほぼ軌道に乗ってあとは開校式を迎えるばかりというぐらい、ここに来て加速されてきたかなと思っております。

委員の皆様におかれましては、引き続き、ご指導ご協力いただきますようお願い申し上げます。

どうぞよろしく申し上げます。

(政策推進課長) 議事に入る前に皆様にお配りした資料の確認をさせていただきたいと思っております。次第にも記載していますが、資料1といたしまして、第6次幕別町生涯学習中期計画素案、資料2-1といたしまして、幕別町教育大綱の素案、資料2-2といたしまして幕別町教育大綱素案の新旧対照表ということでお配りしております。不備があればお申し付けいただきたいと思います。それでは議事進行につきましては、町長からお願いしま

す。

(町 長) それでは議案に入らせていただきます。

最初に第6次幕別町生涯学習中期計画素案について議題とさせていただきます。内容について説明をお願いします。

(生涯学習課長) それでは、第6次幕別町生涯学習中期計画について、ご説明いたします。生涯学習中期計画の策定につきましては、教育基本法第17条第2項で、「地方公共団体は国の施策を示す計画を参酌し、地域の実情に応じ、当該地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう努めなければならない。」とされており、これを受けまして、北海道におきましては平成27年2月に、今後、概ね10年間を期間とする指針「第3次北海道生涯学習基本構想」を策定しているところであります。この基本構想では、市町村の役割として「市町村の実態に即した生涯学習推進構想を策定し、それぞれの特色を生かした生涯学習推進体制の整備や生涯学習の推進のための計画づくりを行う必要がある。」とされております。

教育委員会といたしましては、現計画であります「第5次幕別町生涯学習中期計画」が今年度で終期を迎えますことから、「第6次幕別町総合計画」を上位計画とした「総合的な教育計画として、幕別町の教育として進むべき方向を明確にし、生涯学習社会の実現」のための指針とすべく、2019年度から2023年度までの5年間を期間とする「第6次幕別町生涯学習中期計画」を策定しようとするものであります。

それでは、計画の素案について説明いたします。

1ページの「はじめに」の中段になりますが、本計画は、まちづくりの基本である「第6次幕別町総合計画」に示されている、基本目標の「協働と交流で住まいる」と「豊かな学びと文化、スポーツで住まいる」を基本とするものであります。

次に、計画書の構成及び内容について説明いたします。

計画書の2ページをご覧いただきたいと思います。

目次になりますが、この計画は、第1章の「計画の策定」、第2章の「基本構想」、第3章の「基本計画」の3つの章により構成しており、第5次の計画と同じ構成としております。

4ページになります。

第1章、1の「生涯学習とは」であります。生涯学習とは、私たちが生涯にわたって行う学習活動で、家庭、学校、職場、地域社会で行わ

れる全ての学習を生涯学習として捉えることができるものであります。

下段の【生涯学習社会の概念】という図でお示ししておりますとおり、生涯学習は社会教育に限らず、学校教育と家庭教育を含む総合的な学習であります。従いまして、教育委員会では学校教育を『学校教育課』及び『学校給食センター』、社会教育を、『生涯学習課』及び『図書館』と、それぞれの担当に分けて業務を行っているものであります。

5ページをご覧ください。

2の「現状と課題」であります。中段のとおり、社会の変化により、生涯学習への意欲や関心が高まる中で、多様なニーズに応じた学習を継続して行えるよう、あらゆる年齢層に応じた学習環境を充実させる取組が必要となります。

次に、(1)として幕別町の地域特性、7ページになりますが(2)として実施事業を記載しており、9ページから(3)として「町民意識調査から見たこと」として、アンケート調査の結果を簡単にまとめてあります。このアンケート調査の目的ですが、計画を策定するに当たり、町民の生涯学習に関する参画状況や意識を把握し反映させるため、前回計画と同様に、調査の対象を「9歳から17歳まで」と「18歳以上」の2階層に分けて実施し、アンケートの内容は、第5次計画策定の際に行ったアンケートと比較をするため、前回とほぼ同様の内容で行いました。まず、「9歳から17歳まで」の結果としましては、前回の調査と比べて、テレビやDVDを見る時間や本を読む時間が減少した反面、インターネットやSNSをする時間が大きく増え、自由時間の過ごし方としては、平日は、自分の好きなことをするや、家の手伝いをする時間が減り、家族と一緒に過ごす時間が増加しました。一方、休日は、家族と一緒に過ごすや、家で勉強する時間が減少し、のんびり休養するや、友達と遊ぶ時間が増加しております。また、現在、スポーツをしている子供の割合が6割を超え、サッカー、陸上、野球のほか、他種目にわたって取り組んでいますが、反対にスポーツをしていない子供の理由として、時間がない、お金がかかるなどが大きな割合を占めております。生涯学習に関する意見といたしましては、スポーツ・体力づくりや仕事や職業に関することを学びたいと思っている児童生徒が多く、学校や家庭で困っていることとしては、自由な時間がほしい、友達や先生との人間関係についての回答が寄せられています。また、やってみたいボランティア活動としては、ゴミ拾いなど清掃に関する活動が半数を占め、他には、お年寄りや小さい子供との交流などをしたいとの回答があったところであります。

続きまして、10ページになりますが、「18歳以上」では、前回の調査と同

様に、自由時間に読書やスポーツをするといった時間が少なくなっており、のんびり休養したいと考えている人が増え、自由時間に生涯学習に取り組むとした場合の「さまたげ」になっていることとしては、時間が取れない、経費がかかるといったことの回答があったところであります。小・中学校における教育活動や地域の力を学校運営に生かす「コミュニティ・スクール制度」については、学校の状況がよくわからない、制度を知らないといった回答が多く、子育て世代以外の方への情報発信が課題となっております。また、スポーツをしていない人の割合が7割を超えており、その理由として、時間がないや、仲間がないなどとなっております。生涯学習に関する意見といたしましては、健康や体力づくり、パソコンやスマートフォン、英会話や手話、気軽に参加できる、親子で参加できる講座などを希望されている方が多く、普段困っていることとして、ゴミ出しのルールや路上駐車などモラルに関することや除雪に関することなどの回答が寄せられております。また、やってみたいボランティア活動としては、子育て支援に関することや高齢者や障がいのある方への支援、ゴミ拾いなどの清掃に関することが多く、ほかには、通訳などをやってみたいと思っている方もおりました。いずれにいたしましても、このたび行ったアンケートは、町民の生涯学習に関するニーズであり、今後の講座の開設などに反映させて取り組んでまいりたいと考えているところであります。なお、町民意識調査の詳細につきましては、28 ページ以降に記載しておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

次に、11 ページをご覧ください。

3の「計画の目的」として、この計画は、「幕別町総合計画」のメインテーマである「みんながつながる、住まいる、まくべつ」の実現を目指し、本町の生涯学習に関する施策の総合的な推進を図ることを目的としております。4の「計画の性格」では、この計画は、「幕別町総合計画」を上位計画とし、行政施策を生涯学習の視点から体系付けた部門計画として位置付けております。5の「計画期間」では、2019年度から2023年度までの5年間を計画期間とし、社会情勢等により見直しを行うとしています。

12 ページをご覧ください。

6の「計画の体系」であります。この計画は、「幕別町総合計画」に掲げた教育に関する領域の将来像と施策の大綱を実現するために必要な基本的施策を総合的、かつ体系的に明らかにするものであります。なお、「基本目標」が、「幕別町総合計画」上の大区分の第1章と第4章に係る部分、「基本計画」が、「幕別町総合計画」上の中区分、「施策の方向」が、「幕別町総合計画」上の方策となっております。

13 ページをご覧ください。

第2章の基本構想ですが、「めざす姿」では、①本町の生涯学習を一層推進するためには、町民一人ひとりの学習活動を促進することを基本に、地域の良さや可能性を最大限に生かし、様々な課題に向き合い、地域住民相互のつながりを深め、町民をはじめ、様々な機関、団体等が同じ方向を向いて取り組むことが必要であること、②その実現のためには、多様な学習機会の提供や環境づくりなどを通して、町民の学習意欲を高め、自発的な学習活動を促進する必要があること、③そのためには、一人一人が生涯を通じて積極的に楽しく学び続け、学習で得た知識や経験を地域に還元する必要があること、④そして、幕別町の教育目標であります「郷土を愛し、自ら学び、心豊かに生きる人」の育成を基本として、ライフステージに応じた生涯学習の確立を目指していくとしております。

次のページにかけてとなりますが、こちらは、幕別町の「教育目標」を記載しております。

次に、第3章の基本計画になります。

15 ページから 27 ページにかけて記載いたしております。

基本計画の方策につきまして、第5次計画ではより具体的な事業内容について掲載しておりましたが、本計画の性格は「幕別町総合計画」を上位計画として、その基本計画の「協働と交流で住まいる」と「豊かな学びと文化、スポーツで住まいる」を推進するための行政施策を生涯学習の視点から体系付けた部門計画でありますことから、第6次計画では、それぞれの方策に対する方向性を示すものに体裁を変更いたしましたものであります。

なお、28 ページからは資料部分となっております。また、生涯学習中期計画の今後の策定スケジュールであります。本日開催の総合教育会議を経ました後、資料の1-2及び1-3の部分になりますが、年明けの1月15日から2月15日を予定期間とするパブリックコメントを実施し調整の上、社会教育委員会からの答申を受け、3月の教育委員会議で決定していただくものであります。

以上、第6次幕別町生涯学習中期計画の概要であります。

(町長) 第6次幕別町生涯学習中期計画素案について説明いただきましたが、今回の議題については、中期計画素案と幕別町教育大綱の素案ということでもあります。この中期計画につきましては、教育委員会の専権事項でありますので、それは手続き踏まえて最後は諮問・答申を受けて教育委員会で決定するという性質のものでありますので私からとやかく言うこ

とはありませんが、次の教育大綱は、中期計画上の教育目標を教育大綱の教育目標に掲げ、さらに中期計画上の基本計画を柱に据えているということで、教育大綱の全てが中期計画をベースにして策定していることから意見交換をさせていただくということでもあります。

続いて、教育大綱について説明をお願いします。

(政策推進課長) それでは幕別町教育大綱素案の説明をいたします。

資料につきましては資料2-1と資料2-2をご覧ください。

資料2-1は、新旧対照表の改正内容を溶け込ませたものでありますので、資料2-2の新旧対照表の方で説明をさせていただきたいと思っております。

教育大綱とは何ということにつきましては、前回の会議の際に説明させていただいておりますので省略いたしますが、今回の見直しに当たっては、町長からも説明がありましたように、中期計画の改正に合わせてこちらの教育大綱も改正するというものでございます。

新旧対照表の1ページをご覧くださいなのですが、1番目の大綱策定の背景と趣旨でございます。左側が現行の大綱、右側が改正案ということで修正したところを赤字で記載させていただいております。

1番の背景と趣旨ですが、前段で法律の改正がありましたと多少詳しく追記させていただいております。中段の幕別町においてもという件ですが、その件の3行目後半から幕別町の総合計画を基に、中期計画と国が策定する教育振興基本計画と歩調を合わせながら、現行の大綱は平成27年の9月に策定したことを追記いたしました。今回策定に当たりまして、平成27年度に策定いたしました大綱が最終年度になりますということで新たな指針を示すものであると追記しております。

続いて、2番目の今後の大綱の位置付けであります。大綱の根拠法令となるものを追記しております。第1条の3ということで、これらに基づき町長が大綱を策定しますということです。また書き以降につきましては文言の修正であります。2ページをご覧くださいと思っております。2ページの中段上で地方教育行政の組織及び運営に関する法律ということで、先程の根拠法令の内容を参考に記載しております。

3番目の大綱の期間です。こちらも中身を追記しておりますが、今回見直しを予定しております第6次幕別町生涯学習中期計画と国の第3期教育振興計画を考慮いたしまして、前回の計画は4年間でありましたけれども、今回の計画はこれらの計画と整合性を合わせて5年間とするものであります。ただ、今後社会情勢等により改訂が必要となる場合、適

宜その見直しを行うことを記載しております。

4番はこちらは文言の修正です。

5番は施策の柱です。先程、生涯学習課から中期計画の素案の説明がありました。中期計画の15ページ以降に各種施策の柱が掲載されています。こちらと整合性を図るため、同じような改正内容で新旧対照表の2ページから5ページまで文言を修正し、内容の整合性を図っております。修正の内容については、赤字で記載をしているところであります。続いて6ページ及び7ページは、大綱の概要になりますが、こちら中期計画や第6期幕別町総合計画の基本目標に合わせて修正を行っております。

大綱の改正内容の説明につきましては以上のとおりとなります。

中期計画と同様に年明けパブリックコメントを実施しまして、その意見を反映させて最終的に大綱を策定したいと考えております。

説明は以上であります。

(町長) 先程申し上げましたように、教育大綱は中期計画をベースとしておりますので、中期計画が変わるところがあれば自ずと教育大綱も変わるという仕組みになっております。教育委員会会議の中でも意見は出たのかなと思いますが、発言があればお願いしたいと思います。

(小尾委員) 第6次生涯学習中期計画の説明をいただきましたが、30年前くらいから10年10年と町民の意識も時代とともに変わってきて、その中でいかに町民の方々が一町民としての自覚を持ってもらうことが必要だと思います。ここにもあるように、昔は一人で遊ぶ、行動を起こすにしてもなかなかそういう環境が乏しかったのですが、最近ですとスマホやインターネットの普及によってあらゆる面で情報が得られますし、かつ、家族の中でも団欒の場が非常に減ってきているように感じます。そういった中で家庭教育や家庭の中の家族の絆というのも必要ですが、それぞれが住んでいる地域の一員としての関わり方というのは、本当に希薄になっているのかなと思います。今回の中期計画の中でそういった意識をいかに高めるといふか、持ってもらうかということが大切なところだと思いますが、教育委員会としても色々意見交換をして取り組んでいるところではあります。

(町長) 中期計画では豊かな人生を育む生涯学習の推進というところがかなりポイントとなっていると思います。このような機会を通じて、人間関係を築いていく、あるいは、町のために自分は何をしていくべきなのかを

学んでいくということがこれからの本当の課題になってくるのかなと思います。これから高齢化社会が進展する中で、65歳以上を高齢者と言っていますが、老人クラブは60歳以上から入れます。でも、60歳はすごく若いですし、私も63歳ですけども若いです。また、後期高齢者が75歳以上ですが、これぐらいまでの方々をいかにまちづくりに活用していくかが本当に課題かなと考えています。そこを活用していかないとコミュニティがどんどん萎んでいくと思いますので、その中で生涯学習として何ができるかということをもとに具体的に事業展開することが大事になってきます。もちろん老人クラブの活動やしらかば大学もありますが、なるべく一人でも多く出ていただいて活用することが大事かと私は感じています。ですから、具体の事業展開でいかに引き出していくかということに配慮しなければならないと思っています。なかなか計画もぼんやりとしているので、個々の事業計画を記載していないのでわかりにくいというところもあるかと思っています。前回はかなり細かく明記していましたが、実際謳ったとしても最後は総合計画の3か年の実施計画に位置付けられなければ実施できない仕組みになっていますので、その部分は割愛して3か年実施計画のような事業については位置付けするという制度にしました。

(瀧本委員) 説明いただいた中で、第6期総合計画を基に生涯学習中期計画と整合性を図りながら大綱を組み立てたという流れでしたが、まず、生涯学習中期計画の中のアンケート結果がありますが、お話にもありましたが人間の繋がり、そして学校との繋がりということでコミュニティ・スクールの推進があります。この中で大事なものは、地域の人間と学校との位置付けをどのように繋げていくか、先程町長が言われたように人材を地域のために活用していただくために一生懸命外に出ていただいて、子供たちや地域のために活躍していただくことがものすごく大事になっていくと思います。その中で中期計画の10ページのところにあるようにコミュニティ・スクール制度については、学校の状況がよくわからない、制度を知らないという回答が多くあったようですが、やはり地域の方により良く知っていただくことが大事だと思います。そして、自分が活躍できる場所をコミュニティ・スクールの中に位置付けしていただければ良いのかなと思います。先ほど総合計画や教育大綱の中で学校運営協議会という言葉が使われていますが、コミュニティ・スクールと同じ表現かと思っていますので、できれば一連の同じ表現に置き換えれば良いのではないかと思います。

- (教 育 長) 基本方針の中では、学校運営協議会の言い方は加えましたが、コミュニティ・スクールとは言っていません。具体的な推進項目としては、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）と書いていますので、そこは統一をしたいと思います。
- (町 長) 学校運営協議会は法律上の言葉でコミュニティ・スクールは通称ですが、今はコミュニティ・スクールが一般的になりつつありますので、コミュニティ・スクールを前面に出して、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の方がいいのかもしれない。
- (教 育 長) それと合わせて、瀧本委員からもお話がありましたように学校の状況がよくわからないことがアンケートの中にありましたが、学校としては学校便りなどを公区にお配りして、なるべく学校の状況を認識いただくという取組をしていますが、なかなか中身を見てもらえない状況もありますので、さらに学校の状況を地域にわかってもらえるよう取り組んでいこうと考えています。課題ではありますけれども。
- (町 長) 教育委員会だけでは限界があって、幼稚園や保育所に通っている子供の保護者の方々は行く行くは小学校に上がってきますので、その辺りから関心を持ってもらうよう保育所側から働きかけることも必要なのかなと思います。保育所は保育所、学校は学校ではなくこれは繋がっていますので、今聞いていてそのように感じました。地域で学校を支援していく、何でも言いたいことを言っていくというような雰囲気を作らなければならないので、そのためには幼稚園や保育所の保護者にもう少し働きかけることもあってもいいのではないかと。
- (教 育 長) 今、盛んに小中一貫教育に取り組んでいますが、小中一貫教育の構想の中で最終的な目標、理想としては幼保小中高の連携、支援もあると思いますので、今後、幼稚園や保育所の連携にも取り組む必要があると思います。
- (町 長) どうしても設置者や運営権者が違くとそこで壁ができてしまって風通しが悪くなってしまいますよね。今回の議会の一般質問で、選挙の投票率の向上について質問が出ましたが、これも選挙管理委員会だけでは限界があります。やはり、主権者教育をしっかりと行うところから始めて、それを継続して初めてまちづくりに関心を持ってもらう。この間、幕別

小学校3年生から町に公園づくりについて提言をいただきました。このようなことを仕掛けることも必要なのかなと。それが一つでも実現できれば子供たちも自分たちのやりがいを感じてまた関心を持ってもらうことになる。

(教 育 長) 総合計画策定の時には過去には子ども議会を実施しましたが、そういった取組を通して関心を持っていただくこともあるのかなと思います。

(町 長) 単発ではなく継続的に取り組むことで関心が生まれると思います。かつては、札内中学校の生徒が総合時間を何十時間も活用して、町の担当職員を講師として招いて、各分野で提言をもらったことがあります。そういうことが各学校で何年か前までありましたので、継続して取り組んでいると自然とまちづくりに関心をもつことにつながると思いますし、開かれた学校づくりについても、幼稚園・保育所の保護者に関心を持ってもらうことで継続していくと思います。

(東 委 員) 意見と言いますか、要望と言いますか、今、小中一貫の話や町長がおっしゃった保育園もしくは幼稚園を巻き込んでのお話がありましたが、私自身幼稚園の園児の保護者でもあります。先日一つ出来事がありました。12月8日に幕別駅前イルミネーションの点灯式があった際、1年目だったので全てが初めてでしたが、私も幼稚園児の保護者として参加しました。それで、主催団体のやむわか倶楽部から直接幼稚園の方にプリントと一緒にイルミネーションへの飾り物を園児に一つずつプレゼントしていただいて、点灯式があるから来ていただいてぜひ一緒に飾り付けしましょうということで園児に案内がありました。その案内を受けて園児から保護者に対して「お母さんこういうイベントがあるよ」とうお話を受けたのですが、やはり、親の立場からすると、子供が行きたいと言えばよほど都合が悪くない限り行くかということになりますし、子供だけでは行くことが出来ませんから、親、もしくはその子供に兄弟がいたら兄弟がついていくことにもなります。親に対して直接イベントがありますから来てくださいと言うよりは、子供を通じて保護者に案内する方法は上手だなと少し思いました。人数集めと言いますか、いい意味で大人も巻き込むといった形で。そういったようなことをうまく活用して、例えばコミュニティ・スクールについても、具体的なことは思いついていませんが、大人に直接という方法もあるかもしれませんが、子供から大人へという流れで地域を巻き込むというやり方も一つあるので

はないかと感じました。あと、中一ギャップと言う言葉を良く耳にするようになりましたが、中一ギャップが原因で中学校生活を送ることが出来なくなる生徒も実際にいますし、私も結構身近なところで、今思えばあれが中一ギャップだったのかなと思う子供さんがいまして、中一半分とは言わないですが、結局学校に通えなくなって出席日数が足りなかったことで、高校に進学するときに自分が行きたい高校の選択肢が狭まってしまいました。その子はその中でも何とかやり繰りをして、自分が行きたい、自分がやりたいことを見つけて今高校生になりましたが、そういった子供さんの話を何年か前に聞いたことがありましたので、もちろん、いじめにあって不登校になった子供さんもいらっしゃるから切りはないですけども、幼稚園・保育所、そして、小学校・中学校から少しでもストレスと言いますか、ギャップが縮まるような形で、園児さん、児童さん、生徒さんが学校生活を充実して過ごせるようになっていけるよう要望と言いますか、希望という風に思います。

ただ、私は本町地区のことしか知りませんので他の地区のことはわかりませんが、現在幼稚園と保育所との交流が以前から比べると増えてきているようですし、先日驚いたのが、小学校に入学の決まった園児さんが、入学する直前に体験入学だけでなくもっと前の時期に更にもう一度、二度と保育所や幼稚園から小学校に行って、小学生の生徒さんと一緒に授業を受けるということが年に何度かあるようなので、そういう活動をしていることを耳にすると、そういった環境が変わるとギャップといったものが少し改善されていくのかなという期待はあります。

- (町長) 子供に関心を持ってもらうことは非常に効果が高いです。観光もそうですが、子供や奥さんが行きたいというのは強力です。奥さんが行きたいと言ったら絶対に旦那がついてきます。それよりは子供が行きたいと言ったら、両親もっとすればおじいちゃんやおばあちゃんがついてくる。子供の関心を買うことは色々な面においてすごく効果があると思います。今言われたイルミネーション点灯式もそうですが、子供が行きたいと言えば寒いけれどもしょうがなく行くかということになりますよね。そこは、子供に訴えかけることが何事よりもこれから大事なのかなと思います。小中一貫でも交流は行っていますが、先程教育長が言ったように、幼稚園・保育所からの一貫教育を考えた時には、ある程度の職員交流をすることがより円滑に進むことになると思います。ぜひ、実現してほしいです。今、教育の日に幼稚園児が学校に授業参観に行って、お兄ちゃんやお姉ちゃんに気合を入れることも面白いかと思います。それと、い

じめに起因する不登校はないですね。

(教 育 部 長) ないです。

(町 長) いじめは重大事態ですね。いじめがあるといじめ防止対策推進法で重大事態になります。これになるとものすごく大騒ぎになりますが、今のところ町内ではありませんのでご認識いただきたいと思います。

(國 安 委 員) 明倫小学校の運動会に行ったのですが、あそこは地域をあげて保育園児から大人まで運動会を楽しまれていました。私がすごくびっくりしたのは、卒業生の若者が全速力でかけっこする競技などもありまして、今の若い人も運動会に参加しているんだとすごく驚きました。多分、伝統的に続いているものだと思いますが、もっと皆さんにこんなに素晴らしいことをやっていることをわかってもらえればいいのではないかと思います。この間の途別小学校の餅つき大会も、地域の皆さんがお米が取れなくて残念で悔しがっていたり、本当に学校と一体化して思いを込めて餅つきに情熱を傾けている姿が素晴らしいなと思いましたので、裾野が広がったらどんなに素敵だろうと感じることができました。

(町 長) 僻地校はどちらかというと地域をあげて行っていますよね。途別も確か保育所が参加したりしていましたね。僻地校は地域ぐるみで学校を盛り上げていく雰囲気があると思います。私から一つおもしろい話と言ったらおかしいですが、感心した話を申し上げたいのですが、古舞小学校に校長が転任していくと、公区長が63世帯ぐらいあるのですが全世帯を案内してくれます。63世帯に案内して歩きます。すごいですよね。今年はPTA会長が連れて歩いたようですが、基本的には公区長が連れて歩くことということですよ。いかに地域が学校を盛り立ててあげようという気持ちの現れですし、また、校長が地域の行事の役を担わされています、言わば庶務のようなものです。事務仕事は得意ですから、どちらかというと農村部は事務仕事が得意な人が少ないので、庶務みたいなことを担っていただいているということで地域にとっていい取組だなと思いました。

(教 育 長) 農村部では既にコミュニティ・スクールの素地は出来上がっています。あとは、市街地にある学校の地域の方に学校や子供たちに興味を持ってもらって、一緒になって子供たちを見守っていただけるようにしたいと

思います。

(小 尾 委 員) 児童生徒がいるかいないに関わらず、昔と変わらぬことをそのまま引き継いでやっているところですし、そういう面では古き良き時代をそのまま持っていて、何をするにしても学校と一体ですし、地域の拠り所としての意識も強いです。先程、町長も言われたように子供会や少年団活動にしても父兄はついて行きますよね。そういうところでこれからもできれば、学校の先生方だけに頼らず父兄も一緒に指導できるような環境で、そこには幼稚園や保育所の児童、小学生も中学生も一同に介することができて、学校も一緒にできれば結び付きができて、先生も地域の中の一員という意識でいただければ何も悩むことはないと思います。

(町 長) 特に今時期は、スケートのリンクづくりをしていますよね。本当に夜遅くまで寒い中よくやっていただいています。

(小 尾 委 員) 今子供会はそれぞれの公区であると思いますが、実際どのような活動をされているかというのは様々だと思います。農村部だと地域で1日バスを借りて旅行に行つて常に地域の人と一緒にですし、普段会っても気軽に声をかけられる環境になっています。そういうのは周りの地域からすれば本当に羨ましい限りと言いますか、それだけでなくも公区の中でも未加入の住民の方もいますので、何とか子供たちを活用するという意識になってくれればと思います。

(教 育 長) 登下校の見守りだけでも違うと思います。

(小 尾 委 員) そうすれば変な事件や事故などが起こらずに済むと思う。

(教 育 長) 最近不審者情報が多いですね。そういった見守りだけでもありがたいなと思います。

(町 長) 今出たようなお話を基本的な考え方としながら、各事業を進めていくことが必要だと思いますので、教育委員会や我々もしっかり念頭において施策を推進していきたいと思います。

その他事務局から何か説明はありますか。

(政策推進課長) 次回の第3回の総合教育会議日程についてお知らせいたします。先程

議案の中でも皆様にご説明いたしましたけれども、教育大綱のパブリックコメントを年明け1月15日から2月15日まで行いますので、意見があればその内容を踏まえて、大綱あるいは中期計画の見直しがあります。その内容を反映いたしまして、2月下旬以降に第3回の総合教育会議を開催させていただいて、大綱のご審議をいただきたいと考えております。開催に向けての案内につきましては、あらためてご連絡させていただきます。

(町長) それでは以上で総合教育会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。